

活性化ビジョンの柱立て（案）

■目指すべきまちのビジョン

- ①「人とひとびと、地域の活動がつながるまち」
- ②「地域の資源を活かした産業・雇用が生まれるまち」
- ③「子育て世代に選ばれるまち」
- ④「京都の西の玄関口としての魅力・機能を備えるまち」

①「人とひとびと、地域の活動がつながるまち」

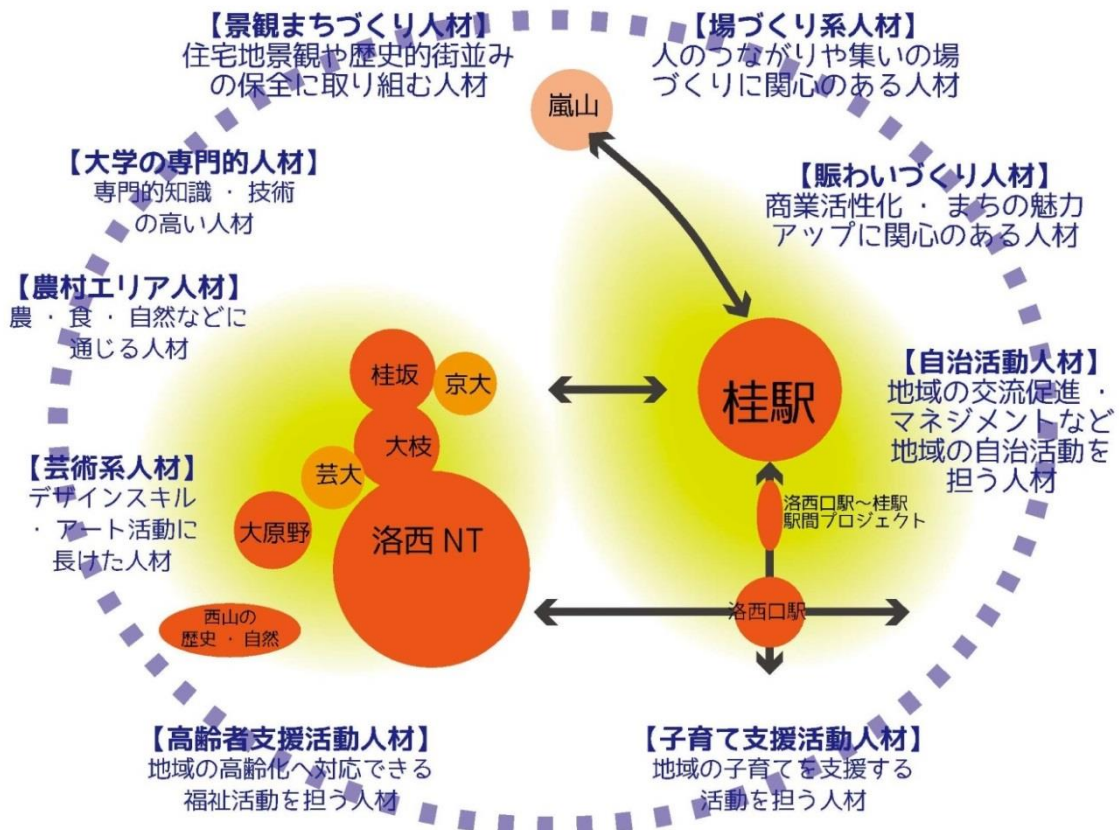
【現状・課題】

- ・地域で活動している人や団体はたくさんあるが、その活動があまり知られていない。
- ・地域を超えた人材・活動のつながりができていない。
- ・自治会加入率の低下など、地域コミュニティの希薄化が進んでいる。
- ・地域によっては、地元で集える場（飲食店を含む）が少ない。

【施策方向性】

- ・西京区全体で、まちづくりの人材や団体の情報を共有する仕組みをつくり、交流を活性化。
- ・地域資源やイベント・祭り等を有効に活用し、高齢者、子ども、母親世代、父親世代などの世代ごと、または世代を超えて交流できる持続可能な場をつくり、住民間の重層的なネットワークを構築。
- ・空き家等を活用し、住民同士が集い、つながれる場を整備。

○柱立て①に関する地域資源イメージ図



②「地域の資源を活かした産業・雇用が生まれるまち」

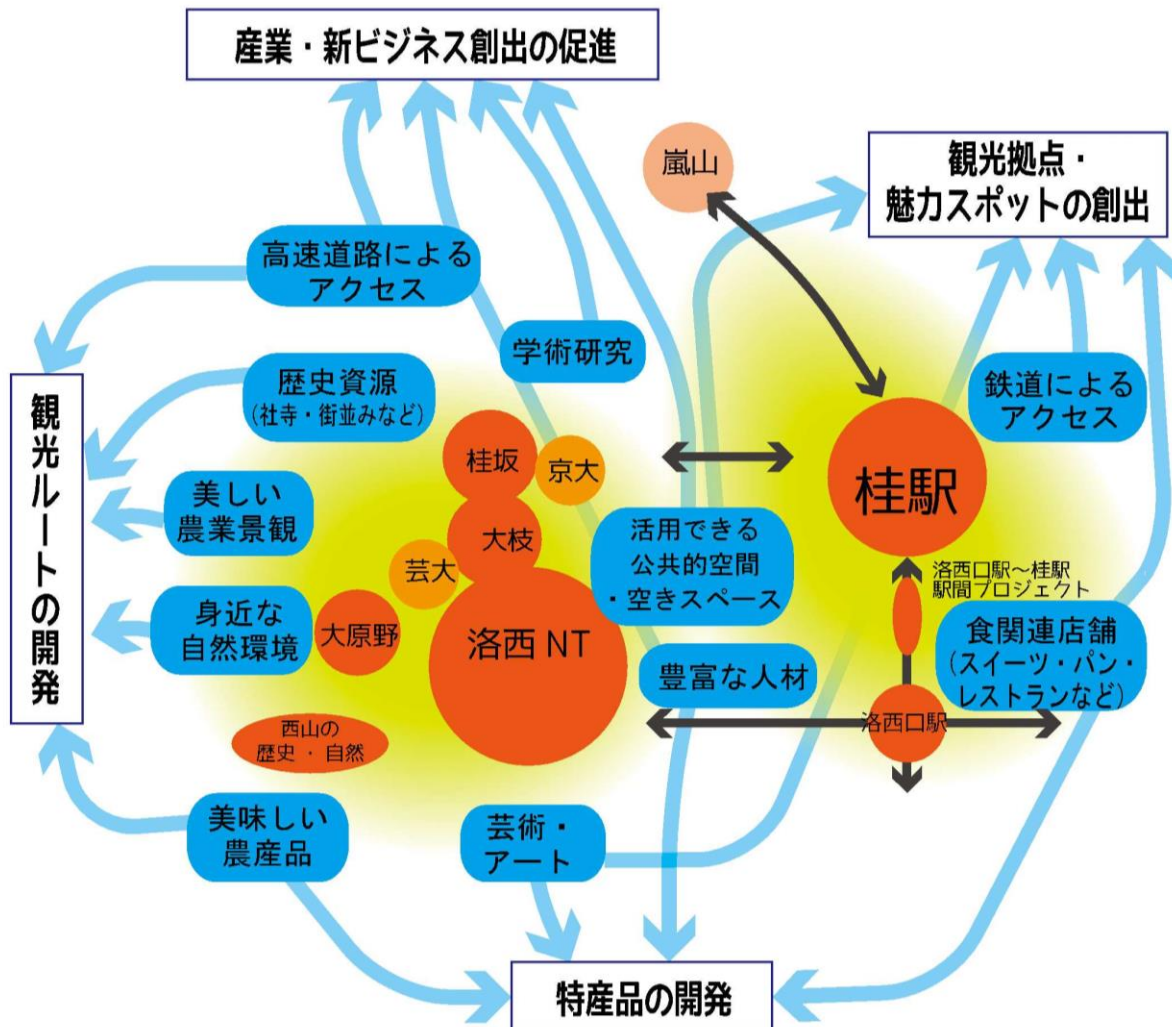
【現状・課題】

- ・豊かな自然や市内最大級の農業地域を有し、地域産品も豊富にある。
- ・区内に社寺仏閣が点在しているが、それが結びついていない。
- ・車でのアクセスが向上している。
- ・元気な高齢者が多いが、その活力を活かしきれていない。
- ・職住近接を選ぶ若年層が流出している。

【施策方向性】

- ・まちの資源を活かした観光プログラムの開発。
- ・地域資源を活かした、農業ビジネスや観光ビジネスの振興。
- ・高速道路のポテンシャルを見据えた産業の創出。
- ・元気な高齢者をはじめとするすべての人が地域のために活躍できる場や地域のきめ細やかなニーズに対応するためのコミュニティビジネスへの支援。
- ・豊かな自然環境を活かすとともに、観光地が点在していることを逆手に取り、区内をゆっくりと回遊してもらうための仕掛けづくり。
- ・区内で若者が仕事できる環境を整備し、若年層が住みたくなるまちづくりの推進。

○柱立て②に関する地域資源イメージ図



③「子育て世代に選ばれるまち」

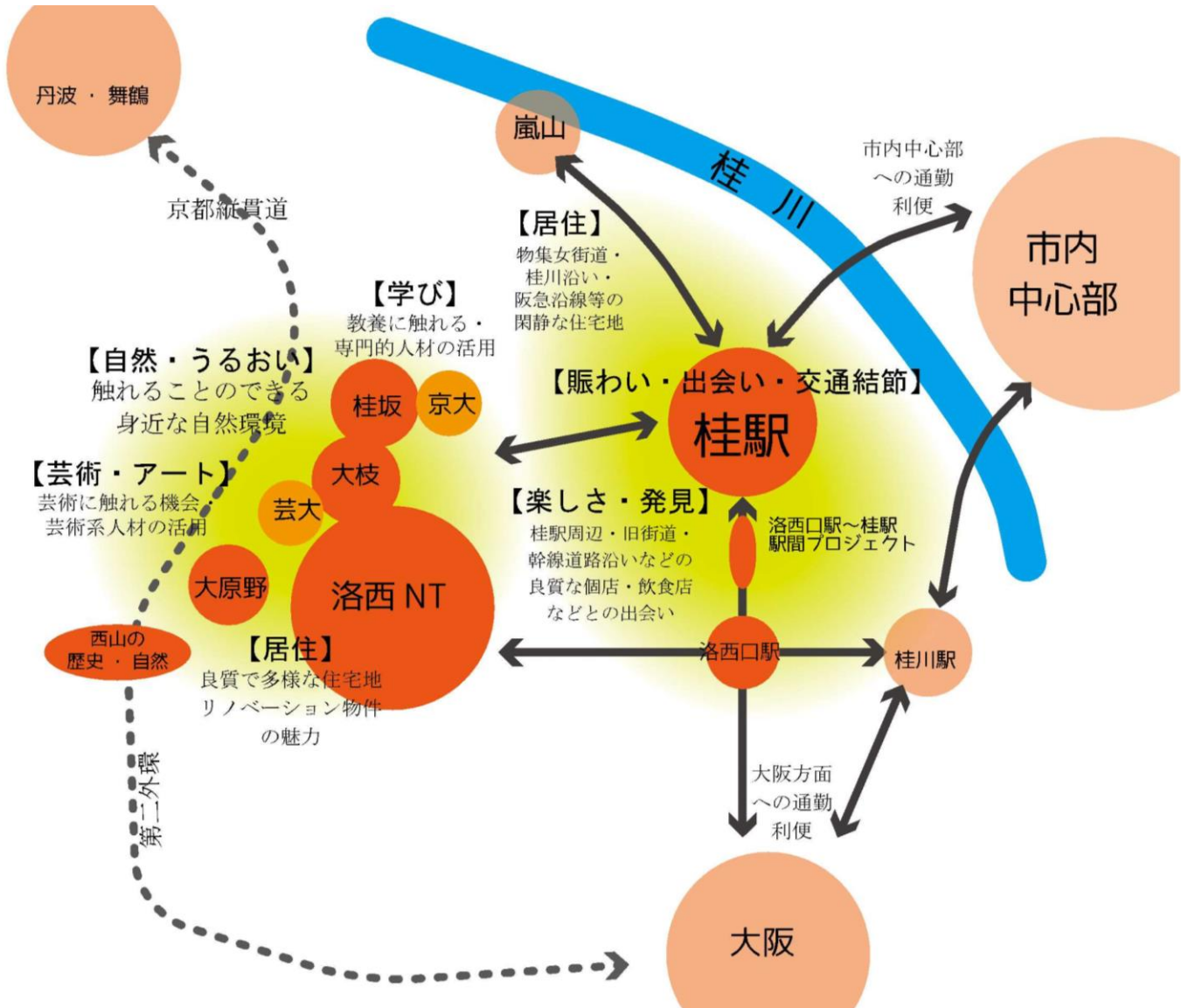
【現状・課題】

- ・西京区全体でみると流入人口が減少している地区は洛西ニュータウン及び大原野
- ・少子高齢化は日本全体の傾向
- ・子育て支援サービスや子どもが安心して遊ぶ場所へのニーズの高まり

【施策方向性】

- ・特に洛西ニュータウンは活用可能な住宅ストックが現存することから、ここにハード・ソフト両面から子育て世代を呼び込む施策を集中的に投入。
- ・洛西ニュータウンの人口動向と原因（なぜ若い人が少なくなったのか）をしっかりと分析したうえで、具体的な方策を実施。
- ・流入人口の増加では、どこから呼び込むのかターゲットを明確にすることが必要。

○柱立て③に関する地域資源イメージ図



④「京都の西の玄関口としての魅力・機能を備えるまち」

【現状・課題】

- 西京区は多様な個性を持つ地域が集まっており、魅力的な地域資源も数多くあるが、住民自身に知られていない。また、外への発信力も弱い。
- 地域の魅力発信や魅力づくりを区全体・区民ぐるみで取り組むネットワークがない。
- 近年では、平成15年に阪急電鉄洛西口駅、平成20年にはJR桂川駅が開業するとともに、平成25年には京都第二外環状道路が開通するなど、都市基盤の整備が急速に進んでいる。
- 区全体ではバス路線が充実してきたが、地域によっては経路や運行時間などの利便性に一層の向上が求められる（区内移動も含む）。
- 西京区エリアにおける地域の活性化について官民が一体となって取り組む、「洛西口駅～桂川駅間プロジェクト」が始動するなど、西京区全体の活性化につながるまちづくりの機運が高まりつつある。

【施策方向性】

- 西京区の多様な地域性を活かす視点が重要であり、まずは住んでいる住民自身が自らの地域の魅力を再確認することが必要。
- 西京区の多様な地域資源を区全体の視点にたって結び付けていくことや、PRすることが必要。
- 西京区ならではの観光プログラムを開発するための、事業者、住民、行政等のネットワークの形成。
- 西京区に本当に必要な交通施策とは何か明確にするため、西京区で暮らす人・訪れる人、それぞれの視点に立ったうえで、区内も含めた交通問題を客観的に捉えなおす必要がある。

○柱立て④に関する地域資源イメージ図

